

## 2022 年度活動報告 現代日本プログラム (CJP) の日本語授業

山本 真理 (関西学院大学日本語教育センター)

### 1. 現代日本プログラム (CJP) と日本語授業の概要について

本学は海外協定校約 280 校 (2022 年 4 月時点) のうち、約 190 校と学生交換協定を結んでいる<sup>1</sup>。例年、世界 20 カ国以上の国・地域より年間 200 名を超える交換留学生在が来日し、現代日本プログラム (Contemporary Japan Program (CJP)) に参加する。留学期間は 2 セメスター (10 ヶ月)、もしくは 1 セメスター (4 ヶ月) である。

本プログラムでは交換留学生のニーズに対応するため、日本語学習を主たる目的とした日本語専攻 (Japanese Language Truck (以下、JLT)) と、英語で日本の文化、社会、経済などに関する科目を履修する現代日本専攻 (Modern Japan Truck (以下、MJT)) に分けられている。

日本語教育センターでは CJP に参加する学生が履修する日本語科目の提供を行なっている。交換留学生在が履修できる日本語科目は全 40 科目 (週 100 コマ) であり、レベルは初級レベルから超級レベルの 8 段階に分けられている。最も高い 8 レベルの学生は一般科目も履修できる。科目内容は、総合的な日本語能力の向上を目指す科目や、読む・書く・聞く・話すといった技能別の科目など、幅広いニーズに対応したものである。週に複数コマ開講されている科目は複数教員のチームティーチングで実施されている。さらに、本プログラムの特徴として秋学期から春学期にかけて 2 セメスター在籍する学生には、春休み期間中に「冬学期 (秋学期集中)」があり、日本語科目を履修することができる。2022 年度より CJP 全体における冬学期の日本語科目の位置付けを見直し、プロジェクトワーク (レベル 1-3)、プロジェクトワーク (レベル 4-8)、上級日本語演習 (レベル 6-8) の開講となっている。

### 2. 2022 年度の交換留学生受け入れ状況について

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症拡大に伴い、来日を伴う新規交換留学生の受け入れは 2020 年秋学期から 2022 年春学期まで停止されていた。本センターではその間の 2021 年春学期から 2022 年春学期までのおよそ 1 年半 (3 学期間)、同時双方向型オンラインプログラムの開講をしてきた。2022 年春学期は 49 名が世界各国からオンラインプログラムに参加した。そして、2022 年秋学期からは 2 年半ぶりに来日を伴う新規交換留学生の受け入れを再開した。来日した学生数は 180 名 (JLT110 名、

<sup>1</sup> 本学国際教育・協力センターホームページ  
(<https://ciec.kwansei.ac.jp/abroad/program/category/detail/010.html>) <2023/1/19 アクセス>より

MJT70名)で、本センターが開設されて以降最大規模となった。加えて、経営戦略研究科や総合政策研究科などから大学院生4名の参加もあった。

### 3. 対面授業再開後の日本語授業の取り組みについて

オンラインプログラムの開講に伴い、多くの授業では授業内容や教材を柔軟に変更してきた。とはいえ、対面授業再開後、全てを以前の内容や教材に戻すのではなく、授業担当者は学習効果や学生にとっての利便性などを考慮しながら、授業内容や教材のあり方について日々検討・更新を続けている。以下では、対面再開後の教材のオンライン化とLAや日本語授業ボランティアの活用について述べる。

#### 3.1 教材のオンライン化とその対応

2020年度以降、多くの科目では課題、クイズ、試験の提示・提出・管理をオンライン化した。オンライン化には本学のLMS(LUNA)やMicrosoft Forms等が積極的に活用された。対面授業再開後の2022年秋学期は、紙媒体を併用する科目もあったが、引き続きオンラインツールが利用された。また、オンラインツールを利用した授業に対応するため、学生は授業に自らのデバイスを持ち込む必要があった。事務の協力のもと、持ち込みデバイスが準備できない場合に備えて、学生用貸し出しPCも準備したが、結果的に貸し出しPCを利用した学生はわずかであった。授業内でのデバイスの利用に関するトラブルなども特に報告されなかった。今後も多くの科目で引き続きオンラインツールが活用されるだろう。

#### 3.2 LAや日本語授業ボランティアの活用

オンラインプログラム開講以降、活用を拡充してきたLA(ラーニング・アシスタント)や日本語授業ボランティアは対面授業再開後も継続して活用された。オンライン授業の春学期は、日本語授業ボランティアは延べ216名の学生が参加し、LAは11科目で24名の学生が参加した。対面授業の秋学期は日本語授業ボランティアは延べ355名、LAは15科目で45名の学生が参加し、オンライン授業時を上回った。

LA、日本語授業ボランティアは単に日本語支援を行うだけではなく、留学生と共に学ぶ同世代の仲間として参加することも多い。実際に経験者からは留学生と過ごす経験が様々な人との接し方や考え方を学ぶよい機会になったといった声が多く、継続的に参加したいという声も聞かれる。このことから本センターの教育が交換留学生にとどまらないものであることがわかる。現在、さらに学びの多い場となるよう制度を整備中である。

本プログラムでは今後も来日学生数の増加が予想されるが、本センターの日本語科目の特徴でもある学生一人一人を大切に丁寧で手厚いサポートを大切にし、教員がチーム一丸となってよりよい教育を目指していきたい。